

第21回 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 議事要旨

◆日時 令和7年10月27日（月）14時00分～16時00分

◆会場 南あわじ市役所第2別館第5会議室

◆出席者 委員：9名

松坂委員（委員長）、福岡委員（副委員長）、飛田委員、金沢委員、釜井委員
鈴木委員、堤委員、三上委員、草地委員

事務局：4名

総務企画部付部長、ふるさと創生課長、ふるさと創生課係長、ふるさと創生
課課員

傍聴者：1名

◆会議の概要

1. 開 会

委員長あいさつ

2. 協議事項

①地方創生交付金事業（デジタル田園都市国家構想交付金）について

・事務局から地方創生交付金事業について説明した。

【委員の主な質問・意見・評価】

●ふるさと教育による南あわじ市「学ぶ楽しさ日本一」プロジェクト

（委員）KPI③のふるさとを愛する児童生徒の割合の伸び率が伸びており、これは抽象的な概念化と思うが、どのように測っているのか。令和5年度に聞き方を変えたと聞いているが、これは聞き方ひとつで変わってくるのではないか。

（事務局）担当課に確認します。

（委員）事業評価がBでやや遅れがあるという評価だが、どういう遅れがありどのように加速化させるのか。

（事務局）アフタースクールについて、市内で一斉に始めるのが理想ではありますが、地区によって開始時期に差が出てきています。

（委員）KPI②アフタースクール参加人数に占める学童対象外の子どもの比率について、KPIが上がったり下がったりしているが、どのように測っているのか。

（事務局）担当課に確認します。

（事務局）離島留学については、令和6年度は新規の受け入れがなかっただけで、全くし

ていないわけではありません。淡路島内からであっても離島留学になり、新たに島外からなかったのも、このような評価につながっていると考えます。また、住むところについても課題があるため取組を加速させる必要があるとなっているかと思います。

(委員) KPI②は学童の子どもの数がわからないとKPIの計測ができないのでは。子供の減少も関わってくるので、そこも追いかけていく必要がある。

(事務局) 対象者や対象外の数把握したうえでKPIの計測をしています。

●はじまりの島淡路島観光推進プロジェクト

(委員) これからの観光について。観光客、時に海外の方は南あわじを目指してくるわけではない。東京から見て淡路島は1つ。現在の観光客の入れ込みの8割は京阪神からの日帰りが多い。これを宿泊に結び付ける必要がある。首都圏からの観光客も少なく、かつてはインバウンドの対策もできていなかった。香港へPRなども行ったが、そこからコロナが始まった。

神戸空港は淡路島にとって非常に大事であり、地方空港に大韓航空が就航するのは本気だと感じた。淡路島3市だけでなく神戸市とももっと結びつきを強めていくべきで、淡路島と神戸市が連携した施策などを広域で考えていただきたい。

(事務局) 神戸市との連携の一つとして、神戸市の市バスに南あわじをPRするラッピングを行っています。昨年の12月から運航しており、この度デザインを変えるタイミングでフルラッピングとなります。観光についても神戸市とともに取り組んでいきます。現状では、神戸空港から淡路島へ来訪するインバウンドは少ない。これまで以上に観光協会と連携し、誘客に努めます。

(委員) 観光客には、宿泊してもらい、ゆっくりしてもらおう仕組みを作らないといけない。海外から日本に来て、淡路島だけに来るわけない。観光をもっと広域で考え、観光地だけでなく、食も含めたコンテンツのブランド化を図る必要がある。

●オンライン申請システム整備事業

(委員) フォローアップについては情報課とワーキンググループだけと記載があるが、転入転出などめったにしない手続きについてもフォローアップをしていく必要がある。また、転入転出について、ホームページの該当箇所にマイナポータルへのリンクなど結びつけをすることも分かりやすさの点から重要かと思う。

●道の駅うずしおを核とした地域活性化拠点整備事業

(委員) 道の駅うずしおは10月19日にリニューアルオープンした。淡路島南IC周辺は地域住民の生活道路であることから、オーバーツーリズムによる渋滞を心配している。休日に四国方面から淡路島に帰ってくる際、淡路島南ICで降りられないこともある。本四高速(株)は、高速道路上の渋滞情報のみを発信しているが、下道の渋滞情報についても出してもらいたい。高速道路上で下道の渋滞情報が見られたら一番いい。また例えば道の駅うずしおや大鳴門橋記念館などの駐車場の満空情報をリアルタイムで届けるべき。

(委員) 道の駅周辺にライブカメラはないのか。

(事務局) ライブカメラはなかったように思います。淡路島南IC周辺は、淡路島の南側の玄関口であり、市としてもオーバーツーリズム対策が重要だと考えている。現在、新たな駐車場の整備を検討しているほか、公共交通へのシフトなども検討しています。

(委員) 福良地区は食事できる店舗が少なく、人手不足のなかでインバウンドを受け入れるのは難しい。オーダーや会計にも時間がかかってしまうので、飲食店の利用は地元の方が中心となっている。福良の空き家を戦略的に活用するエリアマネジメントや専門家による伴走支援が必要ではないか。福良エリアのマップについても、デジタルマップを作成して海外の人も見やすいものを作ってはどうか。また、公衆Wi-Fiの整備も必要なのでは。需要はあるが供給が追いついていない状態である。

(委員) 店を作る際の補助金などがあれば良い。もっと外の人たちが入ってきやすいように。観光関係の連携も大事である。

(委員) 淡路島で飲食店を出したいという話はよく聞くので、需要はあるはずである。その他には住むところもないのが現状。

(事務局) 福良地区では空き家を活用して食の街区を目指す事業が令和7年度から始まっており、Wi-Fiも整備できればさらにいいと思います。

(事務局) 住むところについては賃貸住宅の建設に補助金を出しています。来年に吉備国際大学に新学科ができるので住むところがさらに足りなくなり、何かしらの対策をしないと働きに来た人も、学生も住むところがありません。

(委員) お試し移住はあるのか。

(事務局) お試し移住の場は市では保有していませんが、移住体験プログラムは行っています。移住で一番大事なのは知っている人がいるかということで、つながり

も作れるように取組を行っています。

(委員) 今は団塊の世代がものすごい勢いで亡くなっており、空き家も増えてきているので民泊などできるシステムがあればいいのでは。コロナ以降、田舎の注目度が上がり、そういうのに空き家を活用すればいい。

(委員) 今の市営住宅の稼働状況は？空き家を改修すれば使えるものもあるのではないかな。数名しか住んでいないので取り壊せないところもあると思うが、補修や改修をすれば使えるのでは？

(事務局) 数名しか住んでいないような市営住宅の多くは、建築年が古く費用面等から改修が困難なものが相当数あります。

そういった物件には、数名の入居者が残っている状況ですが、順次移転を促し、最終入居者がいなくなれば解体を行う予定です。

(委員) 空き家がたくさんあるのに住むところがないという状態になっている。

(委員) 転出して残った家をどうするのかは確認しないのか。

(事務局) しますが、転出の時に空き家をどうするのかというPRをすることは効果的だと思うので担当課と話をしたいと思います。また、現在住生活の計画を策定中であり、新たな市営住宅は建てない方針です。人口減少のなか新しい建物をどんどん建てるのはどうなのか、反対に人手不足で人を呼び込みたいが住むところはなく、どちらの方向に行くべきなのか、計画の策定を進める中で決めていきます。

(委員) 市営住宅の活用を検討いただければ。うまいことすれば需要はありそうである。

(委員) 全部行政でするのは問題も多いので、民間が乗っかる仕組みを作るべき。お店もすぐに閉まるので損しているように感じる。

②南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理について

・事務局から南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理について説明した。

【委員の主な質問・意見・評価】

●Ⅱ－10 農業の担い手確保と育成

(委員) 農業従事者が減っている中で米の価格が高くなっており、就農希望者は増えていつているのか。

(委員) 肌感覚では増えている気がするが、ただ、米にはかなりの投資が必要で、玉ねぎの10倍くらいはする。そこのハードルは高い。乾燥業者も高齢化が進んでいる。

(委員) 法人団体は増えているのか。

(委員) そこまで増えている感じはしない。放棄地になっているのは、何かしら原因があり手を出すにはややこしい。

(事務局) 今年吉備大を卒業した2名が就農しましたが、いきなり独立は難しいと思います。

(委員) まずはどこかに所属すべきで、すぐに独立は周りもやめておいたほうが良いと助言している。技術継承にも時間がかかり、安定が大事なので行政が下支えしたほうが良いのでは。また、海外の米が日本に入らないようにしないといけない。高いと言いつつもお茶碗1杯 50 円くらいで、菓子パンを買うほうが高い。そのあたりを周知していけばいい。このままでは国産の米が贅沢品になっていってしまう。

●Ⅲ－5 郷土愛を育む、松帆銅鐸などの文化財整備

(委員) 市民講座の参加・体験人数と淡路人形座の入館者数が指標名となっており、郷土愛を測るにはこういう指標がでてくるとは思うが、郷土愛とリンクしているのかと思う。

(事務局) 単なる数値目標になっている可能性があるの確認します。

●Ⅳ－5 「学ぶ楽しさ日本一」のまちづくり

(委員) 「学校に行くのが楽しい」と思う生徒の割合について、このアンケートに登校の子が含まれていなければ正確な数値ではないのではないかと。

(事務局) 実際にどのようにアンケートを行っているのか確認します。

③物価高騰対応地方創生臨時交付金について

・事務局から物価高騰対応地方創生臨時交付金について説明した。

【委員の主な質問・意見・評価】

(特になし)

3. 閉 会

○閉会にあたり、委員長よりごあいさつをいただいた。